

## ル・コルビュジエ 「カップ・マルタンの休暇小屋」



過日、建築学会埼玉支所会員の皆様と ものつくり大学を訪問した。

建設・製造両学科学生の卒業共同制作として、2011年2月、南仏に有るル・コルビュジエの終の棲家「[カップ・マルタンの休暇小屋](#)」を現地で実施測量し、もの大のキャンパスに原寸レプリカを建設するというプロジェクトが、2年目の夏を迎えて大方完成したと言うので、八代先生に御案内を頂いたのである。

遊水地を地中海に見立て、カップ・マルタンの休暇小屋のレプリカは建っていた。八代先生によると、レストランに増築されるように出来ている休暇小屋の本来見えない西面の壁には、有名なモデュロールの絵が描かれていた。モデュロールとは、フランス語で寸法を意味するモジュール(module)と黄金比(section d'or)を組み合わせた造語で、ル・コルビュジエが第二次世界大戦中に考案した建築の基準寸法システムを言う。ル・コルビュジエは、人間の身長(ヨーロッパ型で182.9センチメートル)と臍の高さが黄金比になることに注目し、人間の身体寸法を独自の寸法体系として展開させたものを言う。



建設・製造両学科の学生20余名が参加し、現物を実測し、忠実に再現する事でル・コルビュジエのモデュロールを身体を通して学ぼうと言う、極めれラジカルな[ものつくり大学](#)のプロジェクトである。、それぞれ学生の興味と彼らの持つ技術を結集してレプリカを創り上げた。建築は勿論、家具、金物、手洗いまで、忠実に彼ら学生の手で再現されている。

長くもの大とお付き合いをさせて頂いて来たが、独自性を発揮し、面白い大学に成って来た。



今回も、カップ・マルタンまで旅をして、実物の休暇小屋の空間体験をし、測量し、図面を起こし、レプリカを創る。羨ましい程に、学生達は貴重な体験をしたに違いない。素晴らしい指導者の居る学生達は、真に幸いである。

多くの、興味を持つ方々に御覧頂きたい。是非、もの大まで足を運んで頂きたいと、思うのである。